

強力型角型間仕切下地材  
標準施工要領書

# 強力型角型間仕切下地材 標準施工要領書

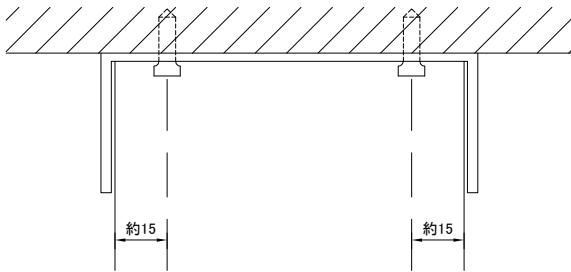
## ①上下ランナーの固定

上下とも躯体がコンクリート造りの場合は、

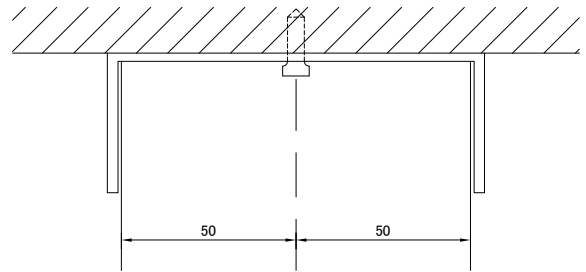
(1)コンクリートピン並列2本留め900mm間隔又は(2)1本留め450mm間隔で確実にランナーを固定する。

(1)コンクリートピン（頭径φ6.0、線径φ2.8xL22mm以上）

(2)コンクリートピン（頭径φ6.0、線径φ2.8xL22mm以上）



並列2本留め @900以内



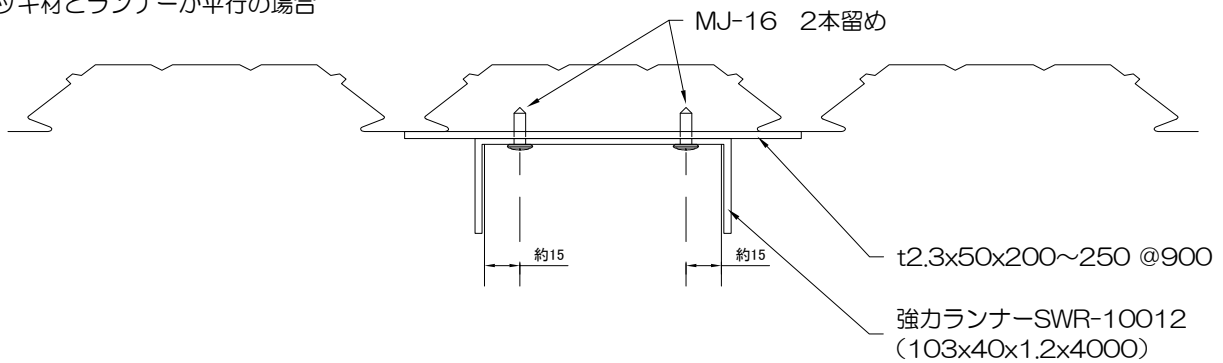
@450以内

※別紙許容高さ表にあるコンクリートピンの留め間隔が@450よりも小さい数値の場合は、その数値以内で留める。

上側がデッキ材の場合、ランナーの取付方向がデッキ材と並行で凹面にあるときは、t. 3x50x200~250の垂鉛めっき切板を900mm間隔で連続溶接し、切板の両側を完全に固定する。溶接部分はサビ止めスプレーを塗布する。

強力型ランナーSWR-10012を垂鉛めっき切板に専用ビスMJ-16を並列2本留め900mm間隔で取り付ける。

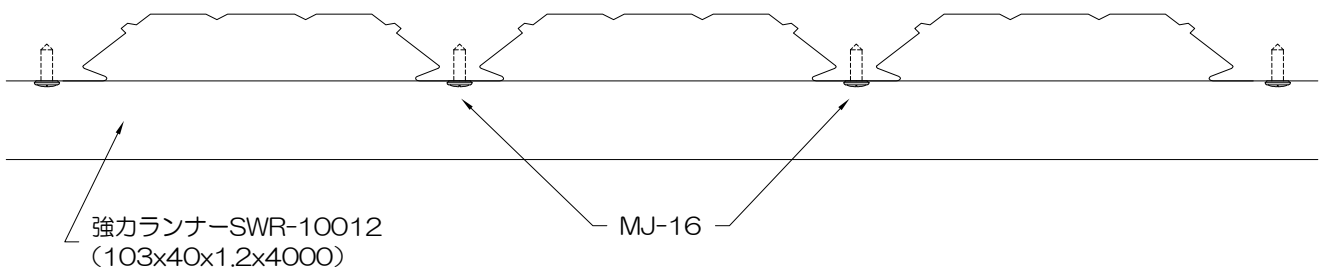
・デッキ材とランナーが平行の場合



ランナーの取付方向がデッキ材と直交する場合は、デッキ材とランナーの両側の接触面を連続溶接するか、専用ビスMJ-16で完全に固定する。

下図のようにランナーと躯体との間に隙間が生じる場合は、強力型ランナーSWR-10012を使用する。

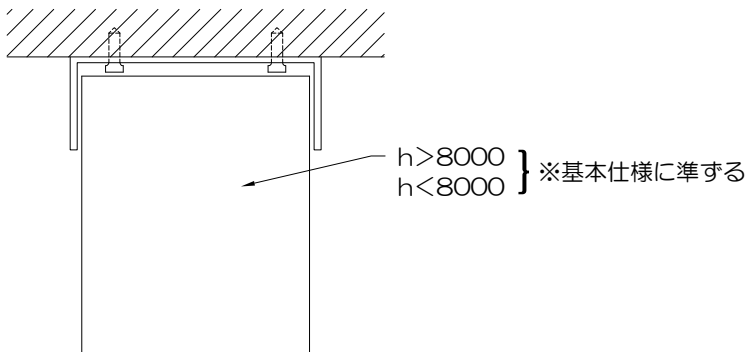
・デッキ材とランナーが直交する場合



# 強力型角型間仕切下地材 標準施工要領書

## ※h8000以下の場合

躯体がコンクリート造のようにランナーと躯体との間に隙間が生じない場合は、  
 上側のみ SLGB-100NFB (□100x45x1.2) → SWR-10012 (103x40x1.2x4000) 、  
 LGB-100NF (□100x45x1.0) → SWR-10010 (102x40x1.0x4000) 、  
 SKH-100NF (□100x45x0.8) ・ KH100NF (□100x45x0.6) → WR-100 を使用する。  
 下側のランナーは全てWR-100を使用する。

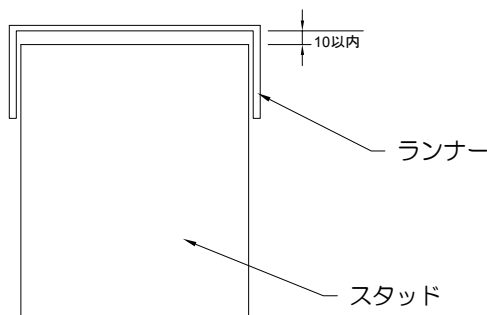


## ※基本仕様

角スタッド	ランナー(スタッド8m未満)	ランナー(スタッド8m以上)	振れ止め	ランナー寸法
SLGB-100NFB (□100x45x1.2)	上: SWR-10012 (t=1.2) 下: WR-100 (JIS)	上: SWR-10016 (t=1.6) 下: SWR-10012 (t=1.2)	8m以上: CC-25 (JIS材)	SWR-10016 (t=1.6) (□104x50x1.6)
LGB-100NF (□100x45x1.0)	上: SWR-10010 (t=1.0) 下: WR-100 (JIS)	上: SWR-10012 (t=1.2) 下: SWR-10010 (t=1.0)		8m以下: CC-19 (JIS材)
SKH-100NF (□100x45x0.8)	上: WR-100 (JIS) 下: WR-100 (JIS)	上: SWR-10010 (t=1.0) 下: WR-100 (JIS)	8m以下: CC-19 (JIS材)	SWR-10010 (t=1.0) (□102x40x1.0)
KH-100NF (□100x45x0.6)	上: WR-100 (JIS) 下: WR-100 (JIS)	上: WR-100 (JIS) 下: WR-100 (JIS)		WR-100 (JIS) (□102x40x0.8)

## ②角型スタッドの建て込み

床面の高さが変化しているので、レーザー測長器で高さをこまめに正確に測り、常に角型スタッドとランナーの掛りが30mm以上 (SWR-10016の場合は40mm以上) になるように角型スタッド上端を切断する。  
 片方のランナーの立ち上がり部分を押し広げながら、所定の間隔に角型スタッドを上下ランナーに差し込む。



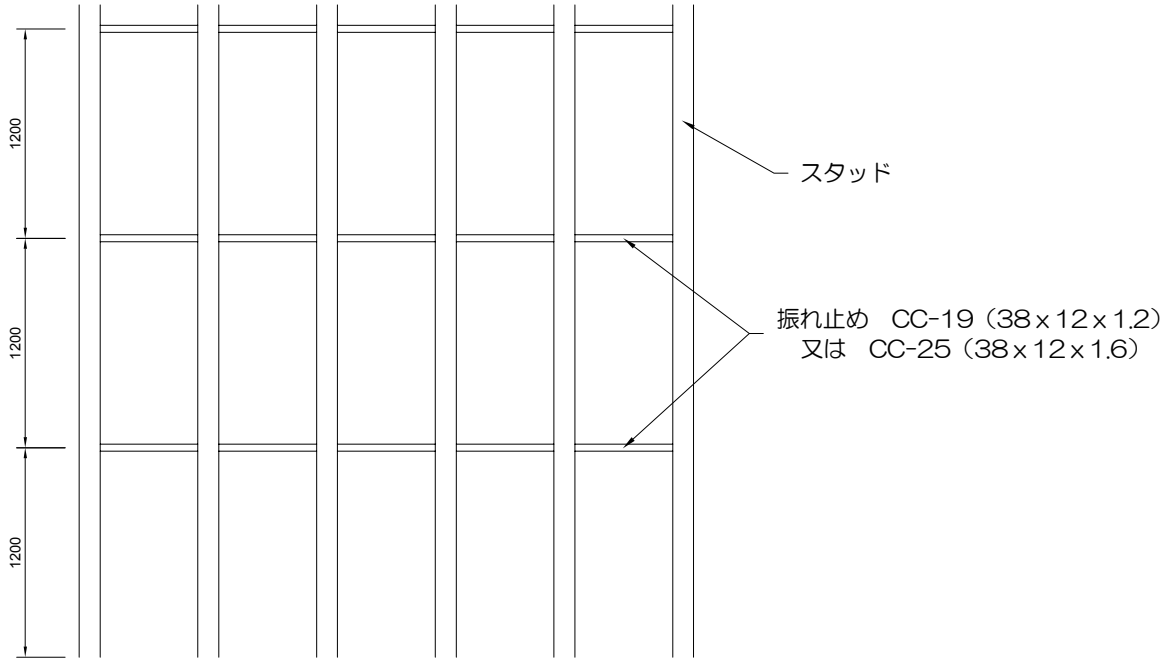
# 強力型角型間仕切下地材 標準施工要領書

## ③振れ止めの取り付け

振れ止めは、CC-19 (h=8000以下) 又はCC-25 (h=8000以上) を使用する。

振れ止めは、床面ランナー下端から1200mm毎に設ける。

ただし、上部ランナーから400mm以内に位置する振れ止めは省略することが出来る。



振れ止めの固定方法はNF型（とびら式）とNFB型（ストッパーL金具留め式）がある。

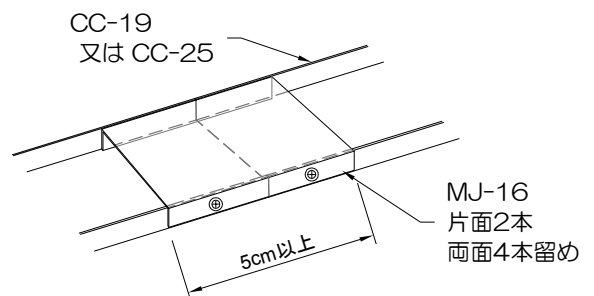
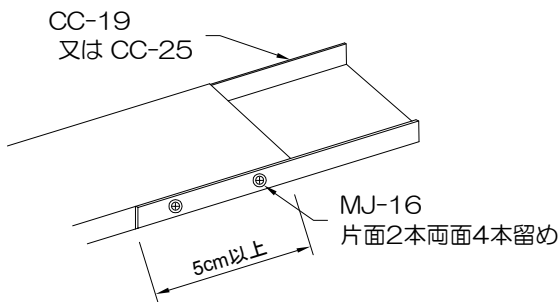
NF型（とびら式）は板厚が0.6mm~1.0mmの角型スタッドに適用され、振れ止めをきっちりはめ込んだ後、とびら部分を元の水平状態に戻すことによって振れ止めが完全に固定される。

NFB型（ストッパーL金具留め式）は板厚が1.2mmの角型スタッドに適用され、振れ止めをきっちりはめ込んだ後、ストッパーLという金具をはめ込むことによって振れ止めが完全に固定される。

振れ止めのジョイント部は5cm以上抱き合せて、ビス留め（MJ-16）でしっかりと固定する。

もしくは

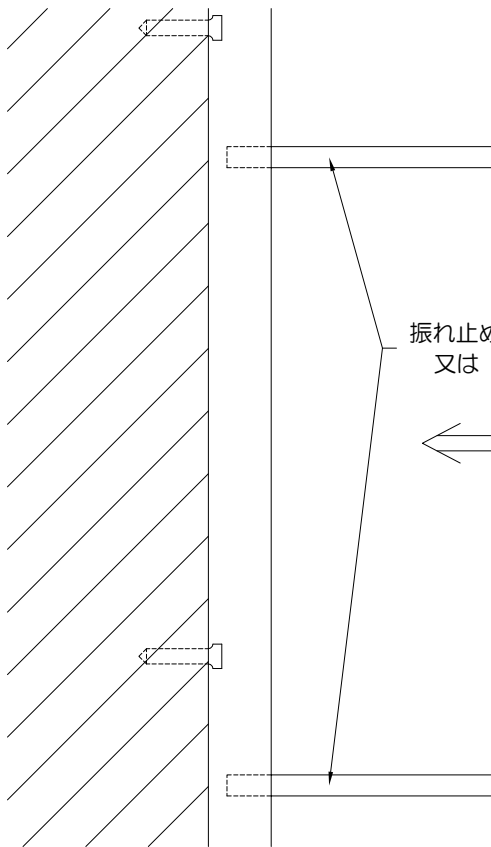
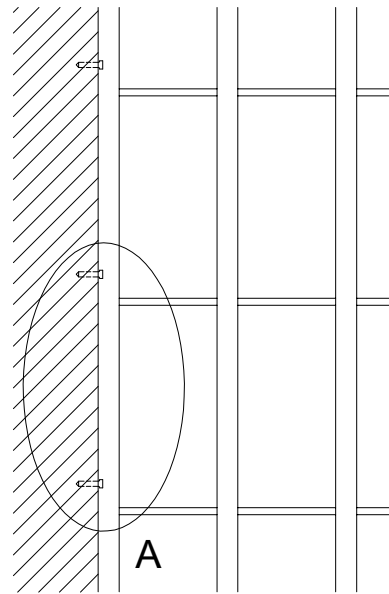
振れ止めのジョイント部は突き合わせ後、同材の破材を5cm以上被せてビス留め（MJ-16）でしっかりと固定する。



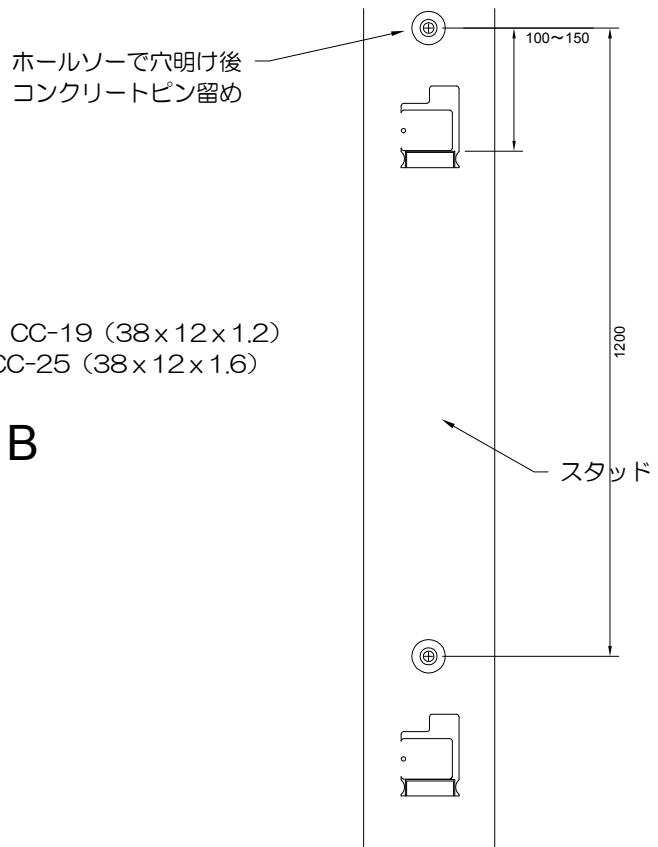
# 強力型角型間仕切下地材 標準施工要領書

## ④端部スタッドを躯体へ固定

躯体に接するスタッドは振れ止め穴の上部か下部に  
@1200でホールソーで穴を開けてコンクリートピンで  
留める。



詳細図A

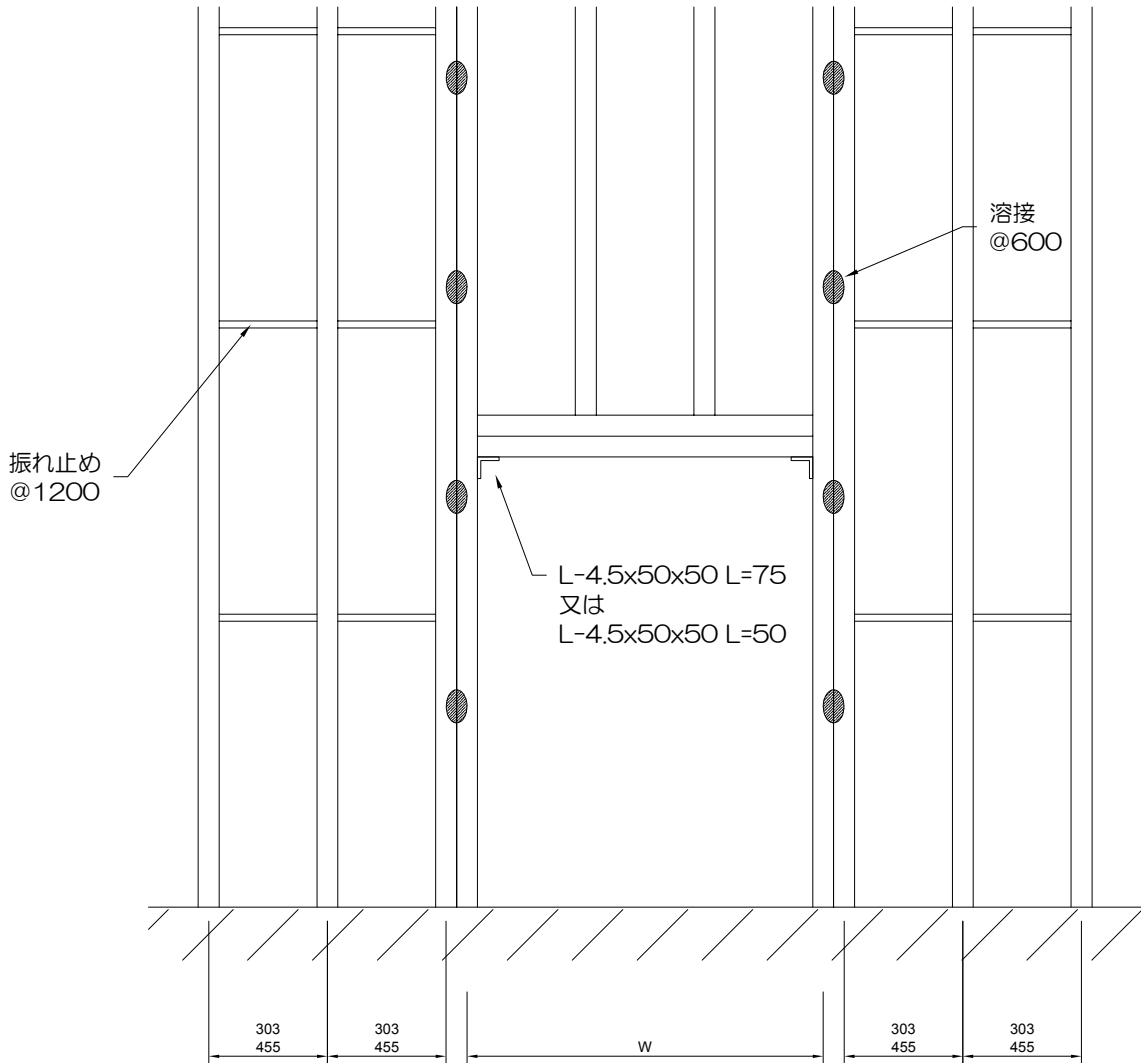


B

# 強力型角型間仕切下地材 標準施工要領書

## ⑤開口部のスタッドの固定

開口部に接するスタッドは下図のように@600で両面に溶接して開口補強材に固定する。



— 以上 —